

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 愛媛県
都道府県 愛媛県
対象地域 愛媛県鬼北町
対象品目 ゆず



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

鬼北地域では環境に配慮した農業を推進するため、ゆずの有機栽培が行われており、うち刺の少ない有望品種「鬼北の香里」の普及面積は約60haと地域の特産となっている。近年、温暖化の影響により病害虫の多発生が懸念されており、特に経済的被害の大きいゴマダラカミキリについて効果的な防除技術が求められていたことから、有機JAS適合の微生物資材を活用した検証を実施した。また、施肥については、昨今の肥料価格が高騰していることから、地域内の未利用資源である豚糞等を用いた施肥技術の検証も行った。

これらの検証は有効的な結果であったことから、栽培マニュアルを策定し、マニュアルをもとに省力的で経済性の高いゆず有機栽培の普及に努める。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			ゴマダラカミキリ防除									施肥	
技術名			捕殺									専用有機肥料	



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			ゴマダラカミキリ防除									施肥	詳細は「ゆずのグリーンな栽培体系」マニュアル参照
技術名			バイオリサ・カミキリ									豚ふん堆肥	詳細は「ゆずのグリーンな栽培体系」マニュアル参照

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	60	▶ 60	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.4	▶ 5	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.4	▶ 5	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.4	▶ 5	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	ゴマダラカミキリの捕殺	▶ 微生物資材を活用したIPM	病虫害被害の軽減 作業時間の削減
環境	有機質肥料の施肥	▶ 地域内の未利用資源の豚糞等の施用	肥料代の削減 未利用資源の有効活用

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	ゴマダラカミキリ捕殺作業工程の削減（回）	1	▶ 0	
環境	豚糞等の特殊肥料の施用量（Nkg/10a）	0	▶ 10	
			▶	
			▶	

＊環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する

（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

＊化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・普及指導員やJA営農指導員が中心となって、栽培講習会や個別巡回指導等の際に、栽培マニュアルを元に効果的な有機JAS適合資材の活用技術や、豚糞などの未利用資源の活用推進を行う。
- ・技術導入農業者からの技術評価や栽培データを収集し、そのデータを活用してさらなる技術普及に努める。

関係者の役割

関係者名	南予地方局農業振興課 地域農業育成室北農業指導	JAえひめ南	農業者	
役割	栽培指導 検証圃場の管理・調査 栽培、産地データの収集	農業者との調整 栽培指導 技術の広報 資材の手配	栽培、産地データの提供 栽培技術検証と検討	

その他